

報 館 おがだ

あいさつで
明るくすまよう
まちづくり



地元の山 芥子坊主を望む

城山公園、アルプス公園から続く西山の最高峰が、岡田の人々には馴染みの深い芥子望主山（標高891m）です。展望台やFM長野の反射板が山頂の目印になります。一帯は芥子坊主農村公園として市民に親しまれています。今回は「けしぼうず」にまつわる歴史から最新のニュースまで紹介します。

芥子坊主農村公園として整備されたのは平成9年です。展望台やキャンプサイトが作られ市民や観光客の憩いの場や交流の場を目的としています（松本市HPより抜粋）。

天気が良ければ松本平や北アルプス、美ヶ原が一望でき、しんきんの森では秋になると見事な紅葉が見られます。春・秋にかけては週末になると県内外からたくさんの方が来てキャンプやバーベキューなどを楽しんでいらつしやいます。



岡田方面を一望 中央の山頂が芥子望主山 中山丘陵から

バーベキューをしていたグループの代表の方（40代男性）にお話を伺ったところ「20年以上利用しています。気軽に焚火を楽しめる場所は少ないのでとても重宝しています」と笑顔で答えてくださいました。

また、芥子坊主といえど、地元の子供たちとの深い関わりもあります。岡田小では、昭和46年から続いてきた一年生から六年生で構成する縦割班遠足という

ものがあり、毎年芥子坊主を登っていました。登山コースを三つに分け、班で話し合っで決めたコースを登り、頂上で豚汁やカレーなどを協力して作るという、児童同士の交流が深まる行事でした。また、毎年作成されていた文集のタイトルが「芥子坊主」という名前だった時代もあり、岡田小の子供たちにとっては、芥子坊主は常に身近な存在でした。



文集 芥子坊主

残念ながら現在では、コロナ禍や登山コースの倒木による安全上の理由から令和3年より芥子坊主遠足は中止、また文集は学校の諸事情などにより平成28年度を最後に廃刊となつてしまっていますが、三九郎のご神木に使われる木の植林地であったり、夏には子供キャンプが行われたり、女鳥羽中学校の強歩大会のコースの一部だったりと、自然豊かな地は、今でも子供たちを育んでくれています。ご存知の方も多いとは思いますが、

ますがこの公園の整備などは岡田地区の皆さんで行つていて草刈りやトイレ掃除など、各町会が順番で回しています。



新しくなったトイレ

今年はトイレが新しくなり、より快適に使つていただけるようになりました。その反面、ゴミの問題や火の不始末など

課題があります。実際、4年ほど前には近くの家まで迫るような火災がありました。今後、大きな問題が発生すれば今のような気軽に使える場所ではなくなってしまう可能性もあります。綺麗にしたい、いつまでもみんなの憩いの場として残していきたいと思



展望台

コラム

「芥子望主」「芥子坊主」どっち？

国土地理院発行の地図に「芥子望主山」と表記されているこの山は、明治時代の地図には「浅間山」と記されていました。しかし、戦前の昭和6年作成の地図から「芥子望主山」に変更されています。ひと昔、岡田の道端のあちこちに芥子の花が咲いていました。その実を芥子坊主といいます。草地に被われた山頂に松の木が生えた山影は芥子の実がゆれる岡田の原風景を象徴する「芥子坊主」だったのかもしれませんが。名前の由来はわかりませんが、岡田の人々は「芥子望主」ではなく「芥子坊主」という漢字を様々な場面で普段使っています。



岡山
田
ほと
ニ
ユ
ス

里山最前線

●塩倉池●

塩倉池は、田溝池よりもわずかに小さいものの、大門沢ウォーターワールド3杯分ほどの貯水量を誇り、塩倉地区の中央に開けた景観を作つてく

れている。かつては養鯉や観光用の貸しボートもあったそうだが、今ではこの農業用ため池を訪れる人はそう多くないように思う。ただ、一年を通じて大小の魚や生き物を見ることができ、子どもたちも池の存在を気に入っている。

特に冬には様々な種類のカモやウが飛来する。早朝に堤防沿いを通るたびに、池から上がっていた鳥たちが一斉に池に飛び込むので、いつも申し訳なく思う。以前のように全面結氷することはほとんどなくなったが、水と氷の一進一退が日々行われ、ごく僅かに残された水面にカモ達が愛らしく密集していることもある。コハクチョウが迷い込んできたときには、ついに塩倉池がメジャーデビューしたとの熱気を感じた。

子どもたちと過ごしている
と、色々なことを質問される。



塩倉池の景観を彩る野鳥たち

春先に松本平から吹き込む南風に舞う白いものはなに？（答え…池に生えるガマの穂）、池から続くあぜ道に咲く、10センチもある巨大なタンポポの綿毛はなに？（答え…バラモンジンの綿毛）。また、池に続く用水路では、ウシガエルのおたまジャクシが、足を生やしたまま泳いでいる。このように、池やそこで育まれる生態系は様々な発見をさせてくれる。

夏に近づくと、池の対岸の草木は、水面を飲み込むかのような樹勢で繁茂する。豊かで宝物のような自然を里山として維持するには並々ならぬ手間を必要とする。高齢化に伴い、町会の運営も以前のようにはいかなくなってきた。それでも、里山としての塩倉池を子どもたちに残していきたいと思います。

(塩倉 松岡 宏紀)

公民館の“新企画”で
ゆる～くつながろう♪



6月15日(土)、岡田公民館の新しい企画「ゆるつな講座」が開かれました。第1回のテーマは「力エール」。ボランティアで公民館に来ていた学生さんたちも合流して賑やかにスタートしました。

話題提供者の酒井さん(松岡町会)は「岡田地区に“カエル” (カエル好き) を増やしたい! 」と宣言。勤め先の商品キャラクターがきっかけでハマリ、以来グッズの収集を続けて現在は家中カエルだらけだとか。まあいい目と笑顔(?) に癒されるそうです。参加者からも「子どものころ地バチを採るのにアカガエルの肉を使った」「先輩にカエルの LINE スタンプを作ってる人がいる」「うちは水辺に近いわけでもないのに、なぜカエルが居るんだろう? 」「若返るように、鏡の前に常滑焼のカエルを置いている」などなど、カエルにまつわる様々な関心やユニークなエピソードが語られました。

「ゆるつな講座」は、好きなこと、興味のあること（テーマ）について参加者同士で語り合う集いです。共通の趣味や話題をもとに、地区のなかで「ゆる～くつながりあう」きっかけになりそうですね。今後も不定期に開催予定とのこと。「こんなテーマをとりあげてほしい」という提案があれば、ぜひ公民館までお寄せください。



私の住んでいる常会は、神社の近くの木々や畑に囲まれていて、桜の花や新緑が目に入るような所です。

子供たちは岡田の鎌倉？
などと勝手にいって「お
母さん岡田の鎌倉野菜だね」
といっただけからかわれます。

仕事が定年となり畑で野菜作りを始めるようになり、ただ作って自己消

費していても、時期には採れすぎたりして余り気味となる野菜たち。それを解消するべくまたいろいろな野菜を近くの人にも食べてもらいたいと思いつき、近くの畑をやっている仲間と畑の片隅をお借りして、小さ

な無人市場のような良心市を始めてから10年近く経ちました。

春先は冬越しした野菜、それらを棚に並べる、あとはほうれん草や菜の花などがあります。山菜も人気です。5月になるとビニールハウス栽培をしている仲間がキュウリを出します。初

野菜作りとお花見
東区 関沢

野菜作りとお花見

東区 関沢 和子

夏からはトマトやナス。私はオ

レンジ色の大きいトマトが好きです。真夏はスイカ。スイカはこだまスイカが人気で甘いらしいです。秋は大根や白菜といったものが並びます。

そんな神社や畑、緑に囲まれて野菜を作っています。

桜の花の咲く頃には、裏参道といわれる古い小道にブ

ルシートをはり、常会の花
児を催すのが恒例となりまし
た。今年も常会長さんの采配
のもと無事に花見が行われま
した。大した準備はいらない、
お弁当とお団子くらいでブ

ルーシートがあれば楽しめます。皆さんも常会で花見など催されると楽

しいですよ。

また、岡田地区には所々に小さな良心市が棚を並べている様です。皆さんも、散歩がてらに畑の傍らにある小さな良心市の野菜たちを探しにで

かけられたらどうでしょう。